

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読み取りに個人差がある。どのように読み取っているのか、自力では困難な児童がいる。自分の思いや考えを表現（話す・書く）することに個人差がある。経験不足から、言葉の意味を理解できないために、文章そのものを理解することに時間がかかってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を理解できるように内容ごとに色分けしたりキーワードに印をつけたりする。ねらいにあったワークシートを提示することにより、自分の考えを整理しやすくする。中学年以上は日常的にも辞書を活用し語彙を豊かにする。平行読書や関連した本を紹介し、単元への興味を高め、理解を深める。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る際、意欲的に活動する姿が見られる。限定的なことは読み取れるが、多面的に読み取ることは難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県名を正しく書けるようにし、高学年では、具体的にどのような場所なのか思い浮かべるように知識の定着に努める。地図帳や資料集を計画的に活用し、読み取る機会を増やす。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題で、何を問われているか考えながら立式する習慣が身に付いていない。 数と計算の領域では、計算はできているが、複雑な計算や計算の仕方などを工夫する力には課題がある。 指先の器用さに欠け、コンパスや定規などの操作を苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題から立式する際、絵や図に表現する機会や、およその見通しをもつ習慣を身に付けさせる。 問題を理解するときや自分の考えを伝えるために、絵や図、線分図などで表現できるようにする。全体で取り組んでから個人で類題を解かせる。 計算練習の中に、継続して計算で工夫が必要な問題に取り組みせることで、様々な計算の工夫の仕方を覚えていかれるようにする。 実際に作図手順を、電子黒板に映し出しながらやってみせてから作業をさせる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に観察、実験に取り組める児童が多い。 観察、実験の結果から考察をして結論を導き出すことや理科の学習で学んだことを自然事象や日常生活に当てはめてみようとするのが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が学習問題を自分事として捉えられるように、問題を見いだせる導入の工夫をする。見通しをもって観察、実験ができるように既習の内容や生活経験を基にしながら根拠のある予想や仮説をもたせる。 考察のしかたを例示し、繰り返し取り組む。 日常生活と関連したものを取り上げる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物や昆虫など生き物に関心をもち、観察したり直接触れ合ったりしている。 季節や環境の変化に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に生き物の観察や世話をし変化に気付き、成長に合わせた世話ができるようにする。 季節ごとに特徴や違いを見付け、生き物の成長で気付いたことを発表したり掲示したりすることで、学びが深まるようにする。 季節の特徴を生かした学びの場を設定する。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かし、興味・関心が広がるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に発見したことを発表する機会を作って情報交換し、興味・関心が広がるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組める児童が多い。 ・表現について自ら工夫したり、よりよくするためにはどうしたらよいかを考えたりする活動には受け身の姿勢になってしまう傾向にある。 ・感染症予防の観点から、活動に制限がわかり、思うように活動ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現するための技能の定着を図り、表現意欲を高め、主体的に活動できるように促していく。 ・考えたことを発言したり伝えあったりする際に必要な音楽に関わる言葉を示し、音楽と結びつけながら共通理解を図り、児童自らが思考しながら活動できるようにしていく。 ・感染防止の対策を講じながら、活動のねらいを見直し内容を工夫していく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童が、意欲的に活動に取り組んでいる。 ・自分で発想することが苦手な児童もいる。 ・丁寧に時間をかけて作業する児童と、作業が雑になって丁寧に仕上げられない児童との差が大きい学年もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で発想することを楽しめるよう、いろいろなアイデアを認める声かけをしたり、発想の練習を取り入れたりする。また、発想を自分で形にできるよう、技能を確実に身に付けさせる。 ・作業が雑な児童には、改善点を具体的に伝えて、よりよい仕上がりを目指す体験をさせる。丁寧に時間のかかる児童には、活動時間の確保や効率的な手順・道具の紹介をする。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心が高く、学んだことを家庭でも実践してみようという意識が高い。 ・裁縫は制作や作業に個人差があるので、配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書など ICT の活用を行い、理解しやすくすることで、さらなる定着を図る。 ・分担や計画を綿密に行い、家庭とも連携を図る。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多く、学習内容によって個人差はあるものの、意欲的に取り組む児童が多い。 ・ボール運動や鉄棒、跳び箱などでは、経験の差が個人差となって表れている。また、腕の力を使う鉄棒や跳び箱、マット運動など体を支えることができない児童やボール投げを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の演技や手本から他の児童が学べるよう、教え合いや学び合いを大切にしたい授業展開の工夫をする。 ・経験の差が技能や意欲の差につながりやすいので、鉄棒、なわとびなどカードを活用して、休み時間にも積極的に取り組めるようにする。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習には、とても意欲的に取り組んでいる。アルファベットの音と文字の認識が定着していないところがある。また、コミュニケーションは、自分の事を話したり紹介したりする活動は得意な児童が多いが、質問に対して答える活動は、苦手意識をもつ児童が多く、児童の間でも差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットについては、書く練習と読む練習を繰り返し行っていく、定着を図る。5年生の学習時だけでなく、2年間通して行っていく。また、コミュニケーションについては、普段の学習の中で練習する時間を設け、基本的な質問に対する答え方について定着を図る。 	

